

下鎌田小学校・下鎌田西小学校の統合・改築について

令和2年12月14日
保護者説明会資料

1. 統合・改築の理由

① 両校の近接配置

学校適正配置の観点からも近接配置を見直す必要があります。

② 学校施設の老朽化

下鎌田小は築62年となり、早期に学校改築を行う必要があります。

③ 年少人口の減少

両校がある東部地域の6～11歳の人口は、今後10年間で約600人減少し、その後も減少傾向は続く見込みです。

◆東部地域の人口推計(6～11歳) (単位:人)

	2020年	2025年	2030年	2040年	2050年
6～11歳	4,865	4,558	4,288	4,173	4,108
2020年比	—	△6.3%	△11.9%	△14.2%	△15.6%

≪参考≫児童・学級数の推計

		R2	R3	R4	(単位 上段:人 下段:学級)			
下鎌田小	児童数	294	306	302	R5	R6	R7	R8
	学級数	11	11	11	851	847	844	842
下鎌田西小	児童数	496	518	536	26	25	24	25
	学級数	16	17	18				

統
合

下鎌田小の校舎老朽化による建て替えのタイミングにあわせ、学校適正配置に取り組みつつ、将来的な児童数の減少も見据え、両校の統合を行う。

統合・改築の概要

- 下鎌田小と下鎌田西小を令和5年4月に統合します。
※令和5年4月より通学区域を一部変更します。
- 令和5・6年度に下鎌田西小敷地で新校舎を建設し、工事期間中は、下鎌田小の校舎と仮設校舎で学校運営を行います。
- 令和7年4月より新校舎で学校運営を開始します。

2. 統合による効果と課題

【効果】

- 新たな児童同士の出会いが増える。
- 多様な意見と触れ合う機会が増え、学力や学習意欲が向上する。
- 音楽、体育等の集団で行う授業が充実する。
- 競争性が生まれ、意欲や成長がより感じられる。
- 教員の経験年数・専門性等バランスのとれた配置が可能となる。 など

【課題】(「⇒」は対応案)

- 児童が新しい環境に慣れるまでのフォローが必要。
⇒新しい環境にすぐ溶け込めるよう統合前に児童交流を実施します。
- 児童一人あたりの校舎・校庭面積が狭くなることによる活動への影響。
⇒新校舎の設計上の工夫により校舎・校庭面積を確保します。
- 通学距離や通学時間が長くなる場合がある。
⇒通学区域の変更に合わせて、より安全な通学路の設定を行います。 など

更なる教育環境の向上を図る

3. 統合に向けた取り組み

主な検討事項

- 校名・校歌・校章の方針
- 統合後の通学区域及び安全な通学路の確保
- 学用品の方針
- 児童交流の方法・時期
- 少人数学級(30人学級)の動向

など

- 今後、統合に係る諸課題について検討し、統合前の準備や調整を行っていきます。
- 検討した事項については、説明会や区ホームページで保護者の皆様へ適宜お知らせいたします。

区ホームページ QRコード⇒



下鎌田小・下鎌田西小 統合・改築事業スケジュール

